

千代田界隈のレトロな風景



スズメのお出迎え

ここを通るたびに屋根の上から「ウエルカム」。

(千代田7丁目にて)

み
ど
り
の
風

人・ひと日記

小林 功

本来ならば今頃ニッポンはオリンピック一色に染まっていたはず。開会式は7月23日、男子100メートル決勝は8月1日です。男子マラソンは8月8日、その後閉会式のスケジュールでしそうが現実は日本だけでなく世界中がコロナ一色。第一波の大波が少し収まり人々の動きが出てき始めた途端に第二波が。・。ウイルスの勢力そのものは少しも衰えていないということでしょうか。国民の多くの人が免疫抗体を身に着けるか、ワクチンができるまで、人の動き方の自粛はずっと続けなければいけない・。・。終わりが見えません。

NHK朝ドラは作曲家古関裕而さんの物語。周囲の人たちの応援と、才能と努力が花開き売れっ子作家に成長してきたところです。・。

2020.8.1

-NO.263-

発行 社会福祉法人 悠朋会		相模原市中央区千代田2-4-1
千代田介護支援センターハルパー	042-751-0672	042-704-0261
千代田介護支援センターハルパー	042-704-0261	042-704-0261
児童クラブいちばん星	042-704-0261	042-704-0261
080-1586-5555	080-1586-5555	080-1586-5555

ホームページアドレス

www.yuhokai-kaigo.com

しなとなにビがこイ化炭素の発生量を少なくするのが狙い。このことによりプラスティック製品の減少、リサイクル・リユースの進歩につながれば、これからはこれでその分の効果はあるのでしょうか。ところがはたと気付いたことが付いたことがあります。今年の梅雨は長く、毎日のよう朝刊も夕刊も袋に入つてきます。ここまで丁寧にサービスをし、こんな考え方、感じ方が自然環境の保護には必要ではあります。コロナ以降の新しい生活様式にも取り入れま

☆7月7日 七タイベント★

今年の7月7日（火）も七夕祭りを行いました。なかなか行事イベントも行いにくい状況の中でも、一日の催しを楽しみました☆



去年に引き続き当日お風呂には笹舟を浮かべました☆
今年は笹舟を事前に利用者さんに作って頂きました♪
子供の頃よく作っていたのを思い出しながら、手際よく
笹舟が出来上がっていました。



短冊へのお願い事で多かったのは、「コロナが早く終りますように☆」個性豊かなお願い事も多く、見ているだけで楽しめました♪

お昼の特別メニューに加え、おやつの時間には天の川に見立てた涼感満天のゼリーが出ました☆



七タゲームも昨年までとは一風変わった形で行い、皆さんのお話を沢山伺うことができ、大いに盛り上りました♪



こんにちは、千代田のヘルパーです！

今日はヘルパーステーション千代田の日々の様子をお伝えします。

現在、介護保険、総合支援合わせて約300人のご利用者さんがあり、63人のヘルパーがそれぞれのお宅に訪問させていただいている。

ヘルパーは、炎天下でも、大雨や強い風が吹く日でも、車や自転車に乗ってそれぞれのお宅に決められた時間に訪問しています。多いヘルパーでは1日に8件程受け持つこともあります、活動と活動の間の時間が短く、どんな天候であってもご利用さん宅への訪問が遅れて影響が出ないようにと、頑張って移動しています。

最近では、コロナの影響もあり、自分たちが感染源にならないようにと、暑い中でもマスクをしたり、消毒液を持ち歩いたりしています。

(一時は移動の間に立ち寄っていたコンビニなどでコロナによりトイレが使えない等の影響がありました)が、今は改善されています。)

事業所としてヘルパー達には、厚労省から頂いた布マスクを配布したり、消毒液やグローブを確保し、必要な物資を供給しています。

毎月18日には、ヘルパー全員を集め、情報の共有や学習会を実施し、能力向上のため日々研鑽しています。通常は千代田ディサービスセンターを使用していますが、コロナの関係で今月は市民会館の大会議室を借りて研修を行いました。

利用者さんやヘルパーは昔から変わりはなくとも、制度だけはたびたび変わり、その度に色々と制約が厳しくなっています。ヘルパーとしての思いは、利用者さんにしてあげたい気持ちはあっても制度的にできなくなっている、そんな気持ちに悩みながらもプロとして法令遵守を徹底しています。



7月ヘルパー定期会の様子（市民会館会議室にて）



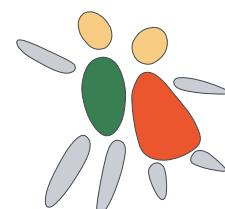
8月の予定



体重測定 3日(月)～9日(日)

夏祭り 14日(金)・15日(土)・17(月)

誕生会 25日(火)～31日(月)





コロナの休日

た。

コロナの影響で生活様式が変わる中、どのように休日を過ごしたのかご紹介したいと思います。

休日に外出することはめったに無いのでコロナがあつても無くとも基本的にステイホーム。テレビを見る、本を読む、音楽を聞く。録画してある映画をじっくり見るのも楽しみの一つ。今回はかつて日本に西部劇ブームがあつたころの大作が二本放送されました。

大御所ジョン・ウェインが主演、監督した「アラモ」とこれぞ痛快西部劇「リオ・ブラボー」。



昨年のラグビーワールドカップ戦。観るのは本番の時以来だったのに日本の全試合、改めて興奮しました。



コロナの報道に隠れてしましましたが、今年の春の叙勲に小説家宮本輝さんの名前がありました。たくさん書いている作家で私もたくさん読みました。デビュー作で直木賞を得た「泥の河」。「骸骨ビルの庭」が特に好きです。

読み終わってはらはら泣ける物語です。

「泥の河」は映画にもなりました。私が選ぶ日本映画の第一位はこれです。

法人が管理する土地が千代田七丁目にあります。エンジン式の草刈り機を購入し除草作業をやっています。天気の良い日、草や土に触ながらの作業は心が解放されます。

以上私の「コロナの休日は「晴耕雨読」でした。

理事長 小林 功

千代田サービスセンター 小林 琢

コロナでの自粛期間、我が家では、小学生の長女、保育園に通う二女、三女が居りますが、幸いにも保育園と、長女は学童に通えていたので、外に出られないというストレスはあまりなかつたようです。しかし休日は必ずと家にいるとストレスが溜まってしまうので庭で食事を摂つたり、工夫して遊んで過ごしていました。

家中では、映画を観たり、ゲームをして過ごすことも多かったです。その中でも「あつまれ どうぶつの森」というテレビゲームでは、無人島を開拓しながら、花を摘んで髪飾りを作つてみたり、釣りをしてみたり、虫取りをしてみたり、天気がいい日の夜は流れ星をみてみたり、矛盾したようにアウトドアな生活を楽しみました。このゲームの中でも虫や魚の名前を覚えたり、貯めたお金で欲しいものを買ってみたり、様々な経験と発見があつたようです。今

この度の新型コロナの感染拡大の影響で自宅にいる時間が増えました。
何かしなければ…と考え、マスク不足もあり手作りマスクを作ろうと考えたのですが、その頃には既に生地もガーゼもゴムも店頭から無くなっていました。

そこで、

捨てられず
にとつてお
いたハンカチを利用し
て作成しました。

作り始め

ると楽しく
なり、再放
送のドラマ
を見ながら
縫いました。



ハンカチを利用して作成したマスクたち

緊急事態宣言も解除され日常が戻つてきました

が、まだまだ安心はできません。

季節も移り変わり、マスクが暑く感じるようになつてきました。

今度は冷感素材の生地でマスクを作成してみようかと思います。

ヘルパーステーション千代田 金森